

第2回埼玉県まち・ひと・しごと創生有識者会議の議事概要

日時：平成27年6月23日（火）

10:00～12:00

場所：埼玉県庁本庁舎2階 庁議室

1 「県内における安定した雇用の創出」及び「県内への新しい人の流れの創出」について

- ・ 地方創生の取組の中で、埼玉が本当に働きやすい県になるということをアピールできるとうい。これができれば、若者を呼び込むこともできるのではないかな。
- ・ 埼玉県は企業進出が多く恵まれており、全国で注目されている。埼玉県に進出した企業を訪問して、埼玉県の良いところをアピールし、定住を呼び掛けるとよいのではないかな。
- ・ 「魅力的な企業とは何か」という話があったが、そこで働くのが楽しい、仕事が楽しいというのが、まさに魅力的な企業だと思う。
- ・ 企業を誘致する場合には、雇用を創出し収益力が高く納税につながる企業と、雇用者の立場から働きたいと思う魅力的な企業について、両方のバランスをとっていく必要がある。
- ・ これから成長する可能性のある若者や中小企業にスポットを当て、やりがいのある環境づくりを県にもバックアップしてもらいたい。
- ・ シングルマザーを優先的に採用する、65歳以上のシニアを優先的に採用するといった個性のある企業が多くあると（雇用が）多様化していく。

2 「若い世代の結婚・出産・子育ての希望の実現」について

- ・ 秩父地域の合計特殊出生率は県平均を超えている。コミュニティがしっかりしているところは子育てがしやすい、子供をつくりやすい環境があるという一つの良いデータになると思う。
- ・ これまでキャリア女性向けの施策が多かったかと思うが、シングルマザーや低所得者への支援などの施策を厚くすることが、社会的な安定を生み、人口が増える方向に結び付くと思う。
- ・ 秩父には産婦人科が1軒しかなくなってしまったため、子供をつくるのをやめようと言う人がいる。産婦人科が少ないのは、県全体の問題だと思う。
- ・ 大学の費用については、奨学金の返済の問題がある。給付型でなくローン型の奨学金だと、就職後、厳しい返済を迫られ、ゼロではなく、マイナスからのスタートになる。働き続ける上でのハードルになっている。

3 「時代に合った地域づくり」について

- ・ 団地の高齢化や空き室が問題になっているが、自治会への協力や高齢者へのヘルプを条件に、安い家賃で非正規雇用の若者に入居してもらったらどうか。
- ・ 高齢化という話は人だけでなく、公共施設についても言える。民間が知恵を出して一緒にやっていくことが重要。また、ただ作りかえるのではなく、まちづくりの拠点にする、ただのインフラではなく、コミュニティをつくっていくことが重要。
- ・ 秩父のみやのかわ商店街で行っている共助の取組について、県では全市町村へ広げると聞いたが、こうした取組をまだ知らない人も多いのではないか。商店街以外にも小さな助け合いボランティアのような取組がもっと出てくるとよい。